

2008 年度第 5 回理事会 議事録

2008 年 11 月 8 日

日本地質学会
会長 宮下純夫

期 日：2008 年 10 月 11 日（土）13:30～19:00

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事・藤本副常務理事・井龍・石渡・岩森・上砂・倉本・齋藤・久田・向山・矢島（各理事），橋辺（事務局）

欠席者：佃副会長・小嶋・坂口・藤林

* 成立員数（12/17）に対し，出席者 13 名，委任状 3 名，欠席者 1 名で，理事会は成立。

○報告事項

1. 運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長-上砂）

- ・ 大学評価・学位授与機構より，「機関別認証評価委員会専門委員候補者」の推薦依頼，11 月 7 日締め切り。
伊藤（谷）大友 狩野 公文 高橋（正）各会員を候補者に上げ推薦手続きをする。
- ・ 富山県人づくり財団より，平成 21 年度「とやま賞」候補者の推薦依頼，12 月 8 日締め切り。HP, News 誌に掲載。理事会として心当たりの候補者の意向等を確認し推薦手続きをする。
- ・ 第 12 回岩の力学シンポジウム協賛御礼，参加者 289 名（海外 33 名）
- ・ 中央復建コンサルタンツ社長交代のご挨拶：新社長 瀧田憲二氏

会員関係（担当理事 向山）

1) 入会者 3 名（正 3 [うち院 2]）

（正 1） 田村芳彦

（院割 2） 宇野正起 中村優太

2) 退会者（正 2 名） 藤本俊二 齋藤史夫

3) 9 月末日会員数

賛助 33，名誉 76，正 4,331（うち院 244），準 28，合計 4,468（前年同期比-106）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

- ・ 合同大会の日程が決定

5 月 17 日（日）に総会会場を確保 15 時～19 時 200 名の会場

- ・連合法人化準備委員会（高木委員）
第4回準備会を10月24日に開催

会計関係（担当理事 向山）

- ・今年度の予算額100万円のうち30万円については、活動状況に応じて追加配分することとしたが、現時点では北海道支部以外からは希望なし（要確認）。希望なしの場合は配分しない。
- ・秋田大会の収支についてはまだ確定はしていないが、概ね良好の模様。講演要旨（800部）は完売、見学旅行案内書の販売も良好（280程度）であった。
同時開催による相乗効果も考えられる。

広報委員会（担当理事 倉本＝情報特任・坂口）

- ・秋田大会の広報成果の報告
- ・プレス発表対応マニュアルの一部を改訂
- ・プレス発表の原稿は行事委員会で確認後に理事会の承認を得ることとする。

2. 学術研究部会（部会長-石渡）

行事委員会（担当理事・委員長 斎藤）

- ・秋田大会について
参加者総数 790人余（内非会員64名、学生が多い）、当初予定人数より約100名増。
鉱物科学会との同時開催については、運営法や事務集約化など多くの検討事項あり。
ポスターや口頭講演の無断写真撮影が目には余るので、注意を促す案を検討。
就職支援プログラムは来場学生数が例年以上。
地質情報展は1900名を越す入場者で盛況。
生徒発表について、合同大会と同じ内容のポスターが表彰されたことに対して疑義が出たが、現時点では大きな問題なしとする意見が多数。
普及講演会は130名集まり盛況 地元に密着した内容がよかった。
教員巡検は盛況。
巡検案内書は280部販売し、概ね印刷費がカバーできた。
巡検案内書の冊子版の必要性は高い。
- ・岡山大会について
 - ・実行委員長は板谷会員（岡山理科大）、事務局は鈴木会員（岡山大）ほか。
 - 9月4日～6日 メイン会場は岡山理科大。
 - 例年より早いので少しずつ準備など前倒しに実施。準備状況は順調。

ニュース誌 10月号にシンポジウム募集など掲載する。

- ・市民講演会の担当は石垣・能美・野瀬の3会員で、科研費を申請する方向で検討している。講師として、鉱物の武田弘さんおよび岡山理科大学の波田学長に依頼中、前者はワインと地質を絡めて、後者は植生と地質といった内容を考えている。会場および日程は未定。

- ・地質情報展は駅近くの岡山デジタルミュージアムを検討中。他機関との共催を予定。

市民講演会やその他の普及企画を近傍で開催される場合には、理科大大会会場とのシャトルバスを希望。

- ・9月8日～10日で鉱物科学会が札幌で開催されるので、巡検の日程など調整の必要。

国際交流委員会（担当理事 石渡＝国際特任理事）

- ・先に承認された日蒙学術交流協定締結の段取りについて、高橋委員長と相談した。まずは、双方の学会誌上で相互に学会紹介、会長の挨拶などを掲載、その後、相互訪問などを進める。

- ・日韓交流小委員会（高木委員長）

学術交流記念セレモニー等の報告

情報交換や年会通じての交流など具体的な交流の中身の検討。

秋田大会での結果などをニュース誌などで紹介。

- ・日蒙交流小委員会（高橋裕平委員長）

3. 編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長 久田 副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）

- ・今月の編集状況は以下の通りです（10月9日現在）。

114-9月号：論説4（58ページ。発行済）

114-10月号：論説2 短報2 報告1 口絵1（53ページ。校正中）

208年度度投稿論文総数105編 [論説71（和文65 欧文6），総説11（和文11）短報6（和文5 欧文1），討論2 報告3 ノート3] 口絵5（和文3 欧文2）

投稿数昨年比 +42 査読中91編 受理済み5編（うち 論説4 特集号1）

- ・秋田大会のシンポジウム特集号を出すようにコンビーナに依頼。

企画部会報告（岩森）

- ・地質学雑誌のインパクトファクター取得について

取得した雑誌によると、体裁を整えることが重要とのこと。

引用文献・キャプションなどの英語表記，英語のレベルの向上。

- IF つきの雑誌になるメリットは大きく、著者に上記要件などの実施の依頼を検討.
- ・法令に反した試料や調査を行っていないかどうかのチェック
論文提出の際の保証書に自己申告項目を加えてチェック。編集委員会で文案を検討し法務委員会に付置する.
- ・地質学雑誌の表紙の変更時期は法人化の日時に関わらず当初予定通り来年度 1 号から

Island arc 編集委員会(担当理事 井龍, 事務局長 竹内圭史・角替敏昭)

- ・編集状況報告
順調に刊行、一般投稿が若干少なく、投稿呼びかけ。
Island Arc の内部ルールとして地名表記案などを検討中.

企画出版委員会 (担当理事 藤林)

- ・屋久島のリーフレット刊行準備状況
現在は屋久島の第二次案待ち
リーフレットの折り方を 8 折か 12 折にするか検討
リーフレットシリーズについては、折り方のオプションを上記の 2 通りにすることとし、探検マップシリーズは今後、12 折をフォーマットと定めることとした.
- ・長期安定性のリーフレットが原稿執筆中、年内に原稿案を作成予定との報告.
- ・地方地質誌刊行委員会 (委員長加藤碩一, 朝倉書店) を開催した (議事録参照)
「関東地方, 592 p. 」は、10 月末刊行予定、価格 26,000 円、初版部数 700 部 (前回刊行の中部地方より 100 部減)、年明け 2 月頃に近畿地方刊行予定.

4. 普及教育事業部会 (部会長-矢島, 藤林)

地学教育委員会 (委員長-阿部国広)

- 秋田で委員会、参加登録料なしで参加できる教員向け巡検の継続要望。
12 月 6 日に委員会開催予定.

国際地学オリンピック日本委員会 (久田)

- ・来年度オリンピック (台湾) の参加者募集要項について
- ・来年度以降も協賛団体からの寄付は必要
JST からの予算が人件費など事務経費に使用制限があるため.
- ・来年度から予選は「日本地学オリンピック」として実施し、その中での好成績者を国際オリンピックに派遣。
本年度好成績の韓国が日本からの ODA 教材を使用したとの話について確認し、利用できるものは来年度の事前準備に使用できないか確認する.

5. その他

支部長連絡会議（担当理事 高木）

- ・ 法人化作業委員会と合同で、9月20日秋田大会ランチョンにて開催。新法人のもとでの支部の区分け、支部の現状と今後について話し合われた。主な論点は次の通り
 - ・ 法人での支部の位置づけ：法人の重要な事業母体の一つである
 - ・ 支部の区分け：現状に不揃いな点があるが、法人化後に検討継続とする
- 支部の意見の汲み上げ（選挙方法など）
支部の意見を代表する理事や、代議員の地方枠を検討することとした。

地質災害委員会（担当理事 藤本）

- ・ 秋田大会の東北現地報告会の報告
- 新潟で構造地質学会と共催した中越地震関連のシンポのフォローアップ活動を実施
構造部会と普及教育担当と連携でおこなう。

ジオパーク支援委員会（担当理事 佃，委員長 天野，高木代筆）

支援委員会によるジオパークのパンフレットを作成（今年中）。

支援委員会の役割をとりまとめ中（HP用）（資料参照 p.10）

日本ジオパークネットワークのロゴマーク、イメージキャラクターもGUPIにより募集中。

- ・ 日本ジオパーク委員会（高木委員）

第3回委員会（10月20日）に、現地視察をふまえてGGN申請5件のうち、ユネスコに申請する3件を決定。同時にJGN申請2件についても、審査を開始。今年中にJGN登録地域を決定して、来年2月20日にJGN認証式を開催。世界ジオパークに決まるのが夏ごろになる。

法人化作業委員会（担当理事・委員長 渡部）

- ・ 第4回委員会を支部長連絡会議と合同で、9月20日秋田大会ランチョンにて開催。新法人の組織体制、支部の区分け、支部の現状と今後について話し合われた。

法務委員会（担当理事・委員長 上砂）

- ・ 第1号事件、第2号事件の除名申請人より、委員会から発出した通知書の回答が9月10日、9月23日付けであった。法務委員会を10月15日に行うことにした。
法人化での新たな除名手続き案もまとめていく予定
- ・ 任意団体での係争中の案件は新法人に引き継ぐ。手続きは法人の規約によることを確認。

○審議事項

1. 法人化に関する諸事項について

1) 新法人定款案の暫定最終版と公証役場での確認について

本日の修正を経た案を弁護士，司法書士，会計士のチェックを経て11月前半には公証役場へ提出。

2) 学会事業・会計の移行時期について

公益認定が下りるまでは任意団体を併存させる。

ただし，年度途中の移行はせず，来年5月の総会時点か，来年度末の移行とする予定。

3) 代議員・理事の支部枠・全国枠の定員数について

新法人の社員となる代議員の定数は100名以上150名以下とし、それに役員枠をプラスする。学会運営に相互の意向を反映させることのできる支部枠の代議員（70名程度）および理事（7名程度）の選出方法についても検討した。選挙の仕組みが複雑にならぬよう、また、選出において支部の負担が大きくならないよう、選挙方法は、今後、選挙細則等の策定において、具体的にしておくこととした。

4) 運営細則・理事会規則の確認と、その他の諸規定類の作成期限等

依頼中のものを担当理事が11月中に作成して確認。

業務受託の契約や寄付受け入れに対応する規則も作成の必要あり。

定款以外の全ての規則類を遅くとも年度末にはセットすることとした。

5) 支部規約のひな形を作成して各支部で完成すべく依頼

モデル案を作り，それに対して細かいところは別途細則とすることを提案。

6) 来年度事業計画・予算計画の策定と新法人との関係について

任意団体としての来年度の活動・事業計画案などを各担当理事が作成し，11月理事会でセットして評議員会に提出する。

7) 臨時総会の内容確認と時間等の検討。

14時開始で15時半終了、以後懇親会。

8) その他

設立時社員 現理事：11月理事会に出席理事が署名・実印押印・印鑑証明提出

設立時理事 現理事

設立時監事 現監事

以上を一般社団法人登記時の定款に付記する。

2. 野外調査における環境保全等に向けた今後の方策について

- ・HP 等での広報，情報支援コンテンツなど

継続審議

3. 学会事務所のスペース改善検討について

事務局の新体制構築の議論の中でスペース改善も含めて検討.

最初に現在の事務所の業務や利便性などの問題点を洗い出す作業を行う.

タスクフォース委員会を設立.

メンバー 佃副会長 渡部常務理事 藤本副常務理事 上砂理事 向山理事

橋辺事務局長 細川事務局員 堀内事務局員

第一回を10月15日(水)16時~18時

また、事務局体制の検討を行うにあたり、理事会として事務局にたいする意思疎通が不十分であったことを確認し、理事会は反省の意を表し、今後の改善に努めることとした。

4. 学会の規模と財政構造について

向山理事からの資料に基づき、他学会と比較しての地質学会の現状について説明を受けた。

他学会と比べて事業収入が少ない(1000万円強)点などを説明、会費収入に依存しない事業規模をさらに2千万円弱程度増やしていく事が妥当との指摘。事務局経費の検討においても参考とする。

5. その他

- ・第3回，第4回の議事録承認
- ・志岐名誉会員からの意見への対応

理事会，評議員会で今後の参考とすべく閲覧に供した旨を，藤本地質災害委員長より志岐名誉会員に返答する。